

Abstract

FEMA（連邦緊急事態管理庁）の創設
——米国の All-Hazards コンセプトに基づく危機管理組織再編

伊藤 潤（極東書店）

連邦緊急事態管理庁（FEMA）は、米国内の緊急事態対応にあたる連邦・州・地方の各政府や民間組織など関係諸機関の活動を支援するため 1979 年に創設された危機管理組織であり、“All-Hazards”（オール・ハザーズ）というコンセプトのもとで、災害の種類を問わず、準備、予防、対応、復旧、被害軽減といった危機管理機能を一元的に管理する仕組みを採用している。このコンセプトは 1990 年代以降の FEMA 発展時に注目を集め、東日本大震災以降の日本においても広く知られるようになってきているが、その起源は 1970 年代の米国における危機管理再編の議論まで遡ることができる。本稿は、1970 年代後半における FEMA の創設過程に焦点を当て、All-Hazards コンセプトの登場が当時の危機管理組織再編に及ぼした影響を検証すると共に、米国の危機管理史における分水嶺という観点からその歴史的意義について考察している。

『国際安全保障』第 45 巻第 1 号（2017 年 6 月）79—96 ページ。